

11529-1

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國、其他

對

供 通 書

荒 木 貞 夫、其他

予後藤文夫ハ良心ニカケテ下記ノ眞實デアルコトヲ
誓約スルモノデアリマス。

私ハ一九三六年岡田内閣ノ時内務大臣デアリマシタ。
其間所謂「一九三六年ノ軍部叛亂」ガ帝都ニ勃發シ
タノデアリマス。即テ岡田首相ヲ暗殺セントスル一
計畫ガ暴徒ニ依ツテ爲サレタノデアリマス。

私ハ岡田海軍大將ガ首相官邸ニ包圍サレテニタ三日
間臨時總理大臣ノ役ヲ務メマシタ。

私ハ現在デモ當時岡田大將ガ閣下方如何ニ軍部ニ信
マサシタカトコト良ク記憶シテ居リマス。

當時陸軍ノ最高首脳部連ニ陸軍大臣陸軍大將川島
義之、參謀總長閑院宮殿下（此ノ御方ハ余リ御指
役ナサラナカッタノデス）參謀次長陸軍大將杉山毅
育總監陸軍大將渡邊錠太郎、軍務局長陸軍少將今井
清、陸東軍司令官陸軍大將南次郎、政陸東軍參謀長
陸軍少將板垣等ガ居ツタノデアリマス。

Exhibit No 166

TO ROOM 361 COPY

一九四〇年ノ晩年公費近衛首相が大政翼賛會ヲ創設スベク決意シタ時ニ彼ハ私ニ此ノ會ノ案件ヲ組織化スルコトニ忠告ト相成ラヌメタノデアリマス。

私ハ度々此ノ會ヲ設立スベク近衛公ノ在命シタ準備委員會ノ委員ト會合致シタノデアリマス。

上軍大佐橋本辰五郎ハ該委員會ノ一委員デアリマシテ、其後彼ハ總務委員ノ地位ヲ占メ上記會ノ業務ニ掌ツタノデアリマス。大政翼賛會ノ設立後ハ重要ナル政黨並ニ政治団体ハ我ニ皆無トナツタノデアリマス。

此ノ結果我ニ完全ニ統制シタ處ノ一重要ナル公事結社ガ創設サレテ、政府ノ役人連ガ此ノ重要ナル地位ノ若干ヲ占メタノデアリマス。

上記大政翼賛會ハ政府カラ一年間八〇〇萬圓迄ノ範圍デ資金ガ補助サレマシタ。該組織体ハ全國ノ各縣、各區、各町内ニ伸到致シタノデアリマス。

後 藤 文 夫

一九四〇年六月十八日日本國東京陸軍省樞内ニ於テ上記後藤文夫ハ下記係官ノ署名ノ前ニ宣誓記名ス。

アイ・サ・エイ・サンダスキ

大尉。 法務局

11929-3

証 明 書

予デエリール・エム・スミヨン、ハ茲ニ左ノ如ク証明ス。
予ハ日英兩國語ニ通曉シ且本日前記供述書ヲ上記後
藤丈夫ニ日本語ニテ讀ミ聽カセタリ。

之ヲ爲スル當リ予ハ前記供述書ノ内容ヲ英語ヨリ日
本語ニ忠實且正確ニ翻譯セリ。

右後藤丈夫ハ該供述書ノ内容ガ眞實ナル旨並該供述
書ニ宣誓ノ上快ク署名スル旨述べタリ。

右後藤丈夫ハ予ノ面前ニ於テ正式ニ宣誓シ且供述書
ニ予ノ面前ニテ宣誓ノ上署名セリ。

該宣誓ヲ爲シ且該供述書ニ署名スルニ就イテノ凡テ
ノ手續ハ日本語ヨリ英語ニ、又英語ヨリ日本語ニ忠
實且正確ニ翻譯セラレ右供述者ニヨリ充分理解且了
解セラレタリ。

一九四六年六月十八日

日本國東京ニ於テ

エス デエリール・エム・スミヨン